### 第 99 回 理事会·拡大執行委員会 議事録

日時:2021年2月21日(日曜日)12時~18時 開催方法:Web 会議システム(WebEx)利用

#### 【出席者(Web) 36 名】※敬称略

#### 「理事]

柚﨑 通介(会長)、岡部 繁男(副会長)、加藤 忠史(副会長)、礒村 宜和(庶務理事)、大塚 稔久(副 庶務理事/大会委員会委員長)、宮川 剛(副庶務理事/将来計画委員会委員長)、上口 裕之(機関誌理事/NSR 委員会委員長)、山中 章弘(広報理事)、山中 宏二(会計理事/奨励賞選考委員会委員長)、岩坪威(理事)、大木 研一(理事)、大隅 典子(理事)、岡野 栄之(理事)、奥山 輝大(理事)、北澤 茂(理事/第 43 回大会長)、木山 博資(理事)、小林 和人(理事/第 46 回大会長)、定藤 規弘(理事)、銅谷 賢治(理事/第 45 回大会長)、林(高木) 朗子(理事)、林 康紀(理事/脳科学辞典編集委員会委員長)、尾藤 晴彦(理事/第 44 回大会長/将来計画委員会 日中韓 WG 委員長)、藤山 文乃(理事)、渡辺雅彦(理事)

#### [委員会委員長]

奥村 哲 (ブレインビー委員会委員長)、合田 裕紀子 (国際連携委員会委員長)、佐々木 拓哉 (ホームページ委員会 (委員長代理))、竹村 文 (動物実験委員会委員長)、花川 隆 (倫理委員会委員長)、平井 宏和 (将来計画委員会 学会体制 WG 委員長)、古屋敷 智之 (神経科学ニュース編集委員会委員長)、松田哲也 (アドボカシー委員会委員長/利益相反委員会委員長)、松元 健二 (アウトリーチ委員会委員長/産学連携推進委員会委員長)、宮田 麻理子 (生物科学連合担当委員会委員長)、吉本 潤一郎 (情報基盤整備委員会委員長)、渡部 文子 (ダイバーシティ対応委員会委員長)

#### 【欠席者 4名】※敬称略

尾崎 紀夫 (臨床・関連学会連携委員会委員長)、掛川 渉 (ホームページ委員会委員長)、笠井 清登 (理事)、Thomas J. McHugh (将来計画委員会 機関誌 WG 委員長)

#### 【報告事項】

- 1) 礒村庶務理事から会員構成や入退会者数、協賛後援名義に関する報告があった。会員数の減少が続いていること、2020年に賛助会員 2 社が退会したことなどが報告された(資料 A)。
- 2) 北澤大会長より、第 43 回 (2020 年) 大会の決算報告が行われた。初めての WEB 開催となったが、会場費や当日人件費が不要となり、決算面では問題なく終えることができたとの報告があった。ランチョンセミナーや展示会がなくなったため、協賛するスポンサー企業への代替案として講演ビデオの前に広告動画を入れたが、参加者からは賛否両論があったことが報告された。
- 3) 第 44 回 (2021 年) 大会の開催方式について、尾藤大会長より、現状では Hybrid 開催(オンサイト 開催を基本としつつ、個人の判断で WEB 参加も可とするが、海外からの来日が困難な見通しから、

海外参加者は全て WEB 発表・参加)とすることを大会実行委員会で決定した旨の報告がなされた。 今後の COVID-19 の感染状況を見極めながら、引き続き安全で実のある開催方法について模索する 方針が示された。

- 4) 第 45 回 (2022 年) 大会 (Neuro2022) につき、大会運営業者はコンペによりコングレ沖縄に決定し、 準備を進めている旨が、銅谷大会長より報告された。大会テーマは「ゆいま~る」に決定し、ポスタ ーのお披露目があった。開催方法は、ハイブリッド開催を前提に検討中であり、また、実行委員会に 加え、プログラム委員への就任依頼とプレナリー演者への正式依頼もほぼ終了したとの説明があった。
- 5) 第46回(2023年)大会の仙台開催に向け、組織体制を決定し、また、2月2日に行われた仙台国際 センターの内覧会に、小林大会長と大隅実行委員長が参加して会場を視察した旨、および大会役員に よるキックオフ会議を3月以降に開催予定である旨が小林大会長より報告された。
- 6) 上口編集主幹より 2020 年の査読審査実績および特集号発行実績と、投稿規程に未発表データの引用を認めない旨を明記したこと、Neuroscience Peer Review Consortium(NPRC)加入については引き続き検討中であること、オンライン投稿審査システム移行が完了したことについて説明があった。今後も年間 600 件程度の投稿が見込まれ、採択率は現状を維持すること、年間 3 号の特集号の発行を予定していることが報告された。著者への判定通知時に、査読者にも判定と他の査読コメントをメールで通知するかどうかについて、NSR 委員会で審議することとなった。
- 7) 奨励賞選考委員会の山中宏二選考委員長より、選考結果の報告があった。受賞内定者 5 名のうち 1 名は、賞の設立以来、初めての外国人であることが報告された。また次回から、応募・審査をペーパーレス化し、応募書類一式を PDF 化して提出してもらうことになり、そのために Web ベースの応募システムの準備を始めるとの説明があった。
- 8) ジョセフ・アルトマン記念発達神経科学賞について、礒村庶務理事より、COVID-19 の影響なのか応募者数が若干少なかったため、締め切りを例年より 10 日ほど延長した結果、例年並みの 21 名から応募があり、現在選考委員会による選考作業中である旨の報告があった。

#### 【審議事項】

- 1) 山中宏二会計理事より学会本体会計 2020 年決算案および NSR 会計 2020 年度暫定決算案が示され、 承認された(資料 B、C)。
- 2) 引き続き山中会計理事から、2021 年予算案、NSR 会計 2021 年予算案が示され、承認された(資料 D)。
- 3) 柚﨑会長より、第47回(2024年)大会の会場候補地として、福岡や北海道が挙げられた。また、他 学会と合同で開催してはどうかという提案があり、意見交換を行った。合同開催とする場合、開催時 期や開催地については他学会との希望のすり合わせも必要になるため、継続審議となった。
- 4) 奨励賞の趣旨・規程について、次回の募集に向けて、COVID-19 のパンデミックによる研究中断・制限があった応募者については考慮して欲しいという会員からの要望があったため、「1 年を上限として考慮する」ことを規程に追加することが提案された。また、応募書類の電子化についても規程で明記することが提案され、審議の結果、規程の改定が決定し、2022 年度の募集から適用することが承認された。
- 5) 神経科学ニュースの印刷・郵送廃止について審議した。冊子体を廃止した場合、PDF 版だけでは読

みにくいので HTML 版にしてはどうかとの意見も出たが、ホームページとの差別化も検討すべきとの議論があった。また、会員への代替サービスの必要性や、学会活動の記録としてのニュースの役割についても話し合われた。それらの議論の結果、代替サービス(内容は今後検討)への予算の再配分を前提として、冊子体の印刷・郵送の廃止が承認された。

- 6) 将来計画委員会 学会体制 WG より、法人化に向けた評議員制度の導入に関する提案があった。法人 化へのタイムスケジュール (現会長の任期中に法人化する)と、評議員制度を創設することについて 審議が行われ、これらが認められた。直近の総会で承認を得るため、神経科学ニュースなどで会員に 周知する予定であることが伝えられた。評議員の条件や決め方などの詳細については、様々な意見が 出たが、今後、WG でさらに検討を進めることとなった。
- 7) 柚﨑会長から、法人化には会則の改定が必須となることから、「会則改定 WG」設置の提案があり、 承認された。
- 8) 柚﨑会長から、高校生の入会についての発議があった。推薦者が資格を満たしていれば、高校生であっても学生会員として入会を認めることと、入会金と年会費は免除することが承認された。また、これを受けて、会則の附則部分に高校生特例を追記することが承認された。
- 9) 倫理委員会の花川委員長から、軍事利用を目的とした科学研究の指針案が示された。様々な問題を含むことから、引き続き継続審議することとした。
- 10) 礒村庶務理事から、理事や委員長を対象とした旅費規程の提案があり、承認された。
- 11) 礒村庶務理事より、社会保険労務士とともに作成してきた事務局スタッフのための就業規則、賃金規程、育児介護休業規程、国内旅費規程の提案があり、承認された。2021 年 4 月 1 日から施行されることとなった。

#### 【各委員会・WG の活動予定報告】

- 1) 将来計画委員会の宮川委員長から活動報告があった。1月に Zoom で委員会を開催し、委員会内での委員の分担を決めた他、脳科学の大型プロジェクトに提案する仕組みを検討したとの報告があった。 日本版 AAAS と本学会との連携の在り方について議論していることや、第44回大会でもランチョン討論会の開催を検討中であるとの報告が行われた。
- 2) 将来計画委員会 機関誌 WG の McHugh 委員長に代わり、将来計画委員会の宮川委員長より、2023 年以降の学会機関誌のあり方についての検討内容が報告された。エルゼビアとの契約更改について引き続き交渉を進めること、オープンアクセス化推進の流れへの対応と、採択基準の明確化について議論を深めることが報告された。また、学会または NSR として Declaration on Research Assessment (DORA) に調印すること、若手研究者が比較的挑戦しやすい新たな論文賞を創設し、表彰、賞金授与、大会での授賞講演を行うことが提案された。財源の負担については編集主幹がエルゼビアと交渉することとなった。
- 3) 将来計画委員会 日中韓 WG の尾藤委員長から活動報告があった。第 44 回大会/第 1 回 CJK 大会を 2021 年に神戸で実施することになっていたので、その時に第 2 回以降の CJK 大会について話し合う 予定であったが、COVID-19 の影響で Hybrid 開催になったため、現地での会議が難しいことから、 大会会期前に WEB で WG を開催する方針が示された。
- 4) 大会委員会の大塚委員長から、以下 4 点の報告があった。①大会の参加登録・演題管理システムをア

トラス社提供の Confit に移行し、一般演題の査読についても同システム上でこれまでと同じように 丁寧な査読を維持できるようカスタマイズした。②Antiharassment policy について、第 44 回大会で は、日本神経科学学会が支持している ALBA DECLARATION ON EQUITY AND INCLUSION に 沿って運営することとし、大会ホームページにもその旨を記載することとした。今後、継続的な運用 方針を定めておくことを検討する。③大会の参加者に向けての個人情報保護ポリシーと演題発表者に 向けての著作権保護ポリシーを、第 44 回大会執行部で策定し、参加登録と演題登録サイト(Confit) 上で表示し、同意を得る方式を採用した。来年以降も同様に運用する予定。④Confit 利用について、 利用規約および秘密保持契約を、アトラス社と大会間で締結済。

- 5) 国際連携委員会の合田委員長より、以下 4 点の報告が行われた。①The Brain Prize 事務局 (Lundbeck Foundation) との連携に関する契約が更新された。②他組織との相互 Travel Award の実施状況について、SfN とは例年よりも多くの枠を用意すること、FENS は Cajal Training Program への参加費支援を募集中であること。③カナダとの二国間シンポジウムの実施方法の検討や設定を行った。④SfN Global Connectome にてソーシャルを実施した。
- 6) 情報基盤整備委員会の吉本委員長より、新システムへの移行について報告があった。新会員情報管理システム (SmartCore) は事務局スタッフが中心になって構築し、2020年12月1日に稼働を開始して、概ね順調に動いているとの報告があった。
- 7) 神経科学ニュース委員会の古屋敷委員長より、神経科学ニュースの編集・刊行状況について報告があった。多額の費用がかかっている冊子体について、継続の必要性を問うアンケート調査を全会員を対象として実施した結果、調査に応じた会員の88%が「冊子体は廃止が妥当」と回答したことが報告された。冊子体を廃止する場合、サービスの埋め合わせとして会費の減額も検討したが、大幅な減額にはならず会員にとってメリットは少ないことが説明された。そのため、会費の減額ではなく他の新たなサービスへの予算の再配分を検討するのが適切であるとの説明があった。
- 8) 佐々木委員(掛川委員長の代理)より、2020年7月にホームページのリニューアル版を公開したことと、大きな変更点は「一般の方へ」と「神経科学の発展のために(Advocacy)」のメニューを新たに設置したことであることが報告された。ホームページへの掲載を希望する神経科学トピックスの投稿が年々増加し、中には掲載できない記事もあるため、掲載の可否についての基準を投稿規定で明記するかどうか検討中であるとの説明があった。新企画については、国内の研究機関・研究室のリスト化/マップ化を検討しているとの報告があった。
- 9) アウトリーチ委員会の松元委員長より、前回の理事会以降の具体的活動として、2020 年度 市民公開 パネルディスカッション「2050 年の脳科学と社会」(ウェブ)の実施報告と 2021 年度 市民公開講 座の準備等について報告がなされた。
- 10) 産学連携推進委員会の松元委員長から、これまで日本神経科学学会がサイエンティフィックアドバイザーを派遣してきた応用脳科学コンソーシアムは、2020 年 9 月に一般社団法人化したが、COVID-19 の影響を受けまだ組織として安定していないため、体制強化が整った後に改めて学会との連携について相談したい旨の連絡を受けているとの報告があった。
- 11) アドボカシー委員会の松田委員長より、関連省庁と意見交換を継続している旨の報告があった。今後 は脳科連などの関連学協会との連携について検討していく方針が示された。
- 12) 利益相反委員会の松田委員長から、前回開催時より、COI 委員会で検討が必要な案件がでていない

- ので、特段議論は進めていない旨の報告があった。また、2020 年分の COI 申告書の提出について、協力の呼びかけがなされた。
- 13) 脳科学辞典編集委員会の林康紀委員長より、よいペースで項目の執筆が進んでおり、だんだんと充実してきているとの報告があった。一部の記事の書籍化なども検討中であることが報告された。
- 14) 臨床・関連学会連携委員会は、尾崎委員長に代わり、銅谷委員から報告が行われた。NPBPPP2020 (日本生物学的精神医学会・日本神経精神薬理学会・日本精神薬学会合同大会)において Free Discussion 枠を日本神経科学学会と連携で開催したとの報告があった。また、2021 年の第 44 回大会では日本精神神経学会との連携シンポジウムを開催予定である他、2021 年日本神経学会の学術大会でも複数の他学会との連携シンポジウムを企画中であることが報告された。
- 15) ダイバーシティ対応委員会の渡部委員長より、「ALBA DECLARATION ON EQUITY AND INCLUSION」を学会として支持すると決めたことなど、様々な活動報告が行われた。また、年次大会のシンポジストの女性比率を上げるための対応策として、公募シンポジウムの募集要項に選考時の基準を追加することの提案があり、承認された。今後の課題として、一般口演の座長の女性比率を上げる方策を検討することになった。
- 16) 倫理委員会の花川委員長から、軍事的な用途に用いられうる研究に関する指針案の作成(審議事項にて審議済み)などを行ったなどの活動報告があった。
- 17) 動物実験委員会の竹村委員長から、「霊長類を対象とする実験ガイドライン」を学会ホームページで 公表したとの報告が行われた。また、今後の予定として、ソムノペンチルが製造中止となり、既に使 用期限が終わっていることを周知する方針が示された。
- 18) ブレインビー委員会の奥村委員長から、脳科学オリンピックの実施状況に関する報告があった。 COVID-19 の影響により 2020 年の世界大会は中止になり、2021 年の世界大会は WEB 開催、予選は CBT での実施する方針であることなどが報告された。
- 19) 生物科学連合担当委員会の宮田委員長より、活動報告が行われた。COVID-19 による緊急事態宣言を受け、生科連から「生徒に向けた教育コンテンツ」の提供依頼があり、学会として「脳科学の達人」を紹介したことなどの報告があった。

以上

### 日本神経科学学会会員構成

### 2020年1月1日現在

	正会員	海外正会員	若手会員	海外若手	学生会員	海外学生	シニア会員
分子・細胞神経科学	1,969	219	84	14	178	5	33
システム神経科学	1,401	178	72	9	151	5	46
臨床・病態神経科学	609	29	29	5	36	1	10
その他の神経科学	255	28	16	1	55	0	0
パネル不明	13	7	2	0	2	0	0
Total	4,247	461	203	29	422	11	89
名誉会員	18						
賛助会員 (1口10万円)※	8						
全会員数	5,488						

## 日本神経科学学会本体会計2020年度(1-12月)決算

(資料B)

 科 目	2020年度予算	2020年度決算	備考
<b>以入</b>			
会員入会金	1,200,000	1,314,000	1
正会員年会費	37,300,000	38,261,000	
若手会員年会費	1,200,000	1,219,000	
学生会員年会費	1,290,000	2,087,000	
シニア会員	· · ·		
	400,000	505,000	
海外正会員	1,000,000	927,000	
海外若手会員	60,000	56,000	
海外学生会員	20,000	44,000	
<b>賛助会員年会費</b>	2,000,000	1,200,000	
預金利息	1,000	1,186	
広告料	1,200,000	<u>'</u>	
維収入	200,000	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	時実基金事務受託費など
その他	500,000	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	応用脳科学コンソーシアム顧問料
収入計	46,371,000	47,499,348	
出			
事業費			
ニュース制作費	6,000,000	5,885,003	デザイン費・印刷費・郵送料含む
ニュース英文校閲料	200,000	260,260	
HP英語ページ等翻訳	200,000	242,952	
HPリニューアル費用	1,500,000	1,140,480	第二段階
会員管理システム初期費用	4,400,000	4,338,884	スマートコア初期開発費用
奨励賞賞金	510,000	512,628	賞状製作費含む
国際機関分担金	3,000,000	1,071,100	IBRO 10,000ドル(1,089,100円)
学術活動支援費	750,000	150,000	生物科学連合、脳科学連合、男女共同参加学協会加盟金、学術協力
国際交流費	3,600,000	476,064	JNS-FENS TA 4,000ユーロ 他
Brain Bee運営費	1,000,000	1,000,000	
市民公開講座支援	2,100,000	0	
産学連携活動	350,000	0	
ダイバーシティ対応	300,000	0	
管理費	<u> </u>	l .	
人件費	19,000,000	20,960,760	NSR関連業務の人件費の一部をNSR会計が別途負担、大会関連業務の人件費の一部を継続的大会が別途負担。通勤交通費、社会保険費用主負担分を含む。
IT関連業務委託費	4,000,000	3,825,774	キッツエムと委託業務契約+消費税 年間 1,944,000円を継続的大会が別途負担
会員管理システム利用料	1,000,000	0	
顧問料	1,100,000	1,280,450	税理士顧問料480,000円+税、月次会計監査費180,000円+税、会
			計ソフトリース料42,000円+税
会議費	450,000	,	理事会2回他
通信費	250,000	214,976	
旅費・交通費	2,000,000	547,427	理事会・委員会旅費、加盟学協会への参加旅費、 事務局員出張旅費
印刷費	500,000	590,722	学会ロゴ入り封筒印刷費
備品・消耗品費	500,000	489,205	
事務室賃借料	1,700,000	-	年間 1,420,680円を継続的大会が別途負担
事務機器レンタル料	240,000	81,902	年間 240,000円を継続的大会が別途負担
光熱料	200,000	47,781	年間 276,000円を継続的大会が別途負担
レンタルサーバー料	550,000	578,600	,
入金手数料	3,000,000	1,969,897	年会費集金に伴う手数料
支払い手数料	150,000	147,950	1
雑費	100,000	60,025	事務室賃貸契約更新時保険料等
	100,000	1 00,025	2 22 TEST OF THE PRINT IN
	500,000	0	<u> </u>
	59,150,000		
		47,475,468	
<b>ヨ</b>	-12,779,000	23,880	
前期からの繰越額	94,919,276	94,919,276	
次期への繰越額	82,140,276	94,943,156	
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	02,170,270	J 1, J 7 3, 1 30	

### 次期への繰越額に含まれる資産と負債

2020年12月31日現在

\\( \psi_{\text{T}} \)			
<b>資産</b>			
銀行預金	104,031,962		
未収入金			
応用脳科学コンソーシアム顧問料	500,000		
神経科学ニュース広告掲載料	315,000		
源泉徴収所得税	11,670		
資産合計	104,858,632		
負債			
未払金			
神経科学ニュース 2020 No.4	1,564,698		
会員管理システム初期費用	4,053,984		
FENS渡航費用補助金	166,622		
11月分社会保険料	570,016		
月次会計監査費 2020年分	198,000		
前受会費			
2020年会費	245,000		
預り金			
源泉所得税預り金	390,212		
アルトマン基金預り金	2,726,944		
負債合計	9,915,476		
次期への繰越額	94,943,156		

(資料C)

# 日本神経科学学会本体会計2021年度(1-12月)予算

		(資料 D
科目	2021年予算	備 考
双入		
会員入会金	1,200,000	3,000円×400名
正会員年会費	36,000,000	10,000円×3,600名(完納率 85%想定)
若手会員年会費	1,080,000	6,000円×180名(完納率 90%想定)
学生会員年会費	1,140,000	3,000円×380名(完納率 90%想定)
シニア会員	400,000	5,000円×80名(完納率 95%想定)
海外正会員	1,150,000	5,000円×230名(完納率 50%想定)
海外若手会員	60,000	3,000円×20名(完納率 90%想定)
海外学生会員	10,000	1,000円×10名(完納率 90%想定)
	1,200,000	8社
預金利息	1,000	
広告料	900,000	  神経科学ニュース、HPバナー広告など
雑収入	<u>'</u>	時実基金事務受託費 など
その他	-	応用脳科学コンソーシアム顧問料
収入計	44,041,000	
出	14,041,000	
事業費		
ニュース制作費	6,000,000	印刷費・郵送料等
ニュース英文校閲料	200,000	
	-	
HP英語ページ等翻訳	200,000	<u> </u>
HPリニューアル費用	-	第二段階
会員管理システム開発費用	•	スマートコア初期開発費用
奨励賞賞金 		賞状製作費 4,860円を含む
国際機関分担金	· · ·	IBRO 10,000ドル
学術活動支援費	150,000	
国際交流費	3,200,000	JNS-FENS Travel Award 4,000ユーロ、JNS-SfN Exchange Travel Award 2,500ドル×5名=12,500ドル、年次大会指定枠TA 1,400,000円
Brain Bee運営費	1,000,000	
市民公開講座開催支援	2,100,000	
産学連携活動	350,000	
ダイバーシティ対応	300,000	
他学会連携活動	100,000	
将来計画委員会	500,000	
管理費		
人件費	26,500,000	NSR関連業務の人件費の一部をNSR会計が別途負担、大会関連業務の人件費の一 を継続的大会が別途負担。通勤交通費、社会保険費雇用主負担分を含む。
IT関連業務委託費	2,000,000	委託業務契約+消費税
会員管理システム利用料		スマートコア年間利用料
顧問料	1,200,000	税理士顧問料480,000円+税、月次会計監査費180,000円+税、会計ソフトリー 料42,000円+税、社会保険労務士顧問料330,000円
	100,000	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
通信費	250,000	
旅費・交通費	1,000,000	  理事会・委員会旅費、加盟学協会への参加旅費、事務局員出張旅費
印刷費	500,000	学会ロゴ入り封筒印刷費
「ロッドリラ   備品・消耗品費	500,000	3 44-47 (7 22) FD FF (19) 550
事務室賃借料	1,700,000	  年間1,420,680円を継続的大会が別途負担
事務機器レンタル料		年間1,420,680円を継続的人会が別途負担   年間240,000円を継続的大会が別途負担
	240,000	· ·
電話・光熱料	200,000	,
レンタルサーバー料	800,000	
入金手数料	2,000,000	年会費集金に伴う手数料 
支払い手数料	150,000	
雑費	100,000	
予備費	_	
	500,000	
支出計	55,380,000	
当期収支差額	-11,339,000	